



上末っ子

令和4年2月28日

3月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>



学校ホームページ用 QR コードです。
「学校の様子」から各学年の様子を
ご覧いただけます。



Yokohama City
Kamisueyoshi Elementary School
70th Anniversary

大事な人ほど すぐそばにいるの

校長 内田 宏平

3月になります。令和3年度のゴールが見えてきました。4月に始まり3月に終える一年間をこつこつと6回繰り返す小学校生活ですが、昨年度に引き続き、今年度も簡単には表現することが難しい困難を抱えながらの一年間となりました。分散登校や教育活動見直し等が続き、制約の多い日々でした。しかし、そのような中で、上末吉の子どもたちは本当によく頑張りました。

年が明け、第6波を受けての「まん延防止等重点措置」実施に伴い、年度末の様々な活動が更なる影響を受けることになりました。

呼気の荒くなる活動を減らすため、休み時間の遊び方が変わりました。それまでの鬼ごっこ系の遊びは、一輪車や竹馬、フラフープでの遊びにシフトしていきました。正直、不満を抱く子もいるだろうと様子を見てみると「竹馬に乗れるようになった!」「フラフープ3個回せた!」などと報告してくれる子の多いこと!

各クラスでテレビ中継を見ながら行った「KS70♡バースデーパーティー」では、映像を介して全校で思いを一つにしてつながり合うことができました。「楽しかった!」と帰っていく子どもたちの姿からは、学校愛や地域愛が確かに育っている様子が感じ取れました。

日本民家園に社会科見学に行ってきた3年生。お弁当の食べ方等制約のある中での実施でしたが、「水車と馬小屋が面白かったです!」と、しおりを開きながら一生懸命教えてくれました。

よみうりランドへ卒業遠足に行った6年生は、絶叫系アトラクションの得意不得意をグループ内で相談したり、お土産を買う時間を調整したり、折り合いをつけながら満喫する姿を見せてくれました。解散式では、「企画してくれた先生方ありがとうございました」とお礼の言葉まで伝えてくれました。

我々大人にとって、未知の経験が続く日々は過酷なものでありました。これまでのやり方が通用しない苦しさを乗り越える中で、奮い立つ勇気を与えてくれたのは、間違いなく子どもたちの前向きな姿です。それぞれの置かれた状況で、決して現状を諦めることなく一步一步進もうとする子どもたちの姿こそが、我々大人ひいては社会全体を動かす原動力になっていたと言っても過言ではありません。

もう10年以上前になりますが、私は台湾の日本人学校に勤務していました。日本各地から赴任する教員たちは、非常に個性的で魅力的である反面、その背景や文化の違いもあって衝突することもありました。でも、毎週金曜日は仕事の後、必ず食事に出かけるようにしていました。そこで教育観を熱く語り合うわけですが、最終的には、マイクを握って合唱になることが多々ありました。特に、MONGOL800というバンドの「小さな恋のうた」を熱唱した後は、胸が熱くなったものです。“ほら あなたにとって大事な人ほど すぐそばにいるの”という歌詞に、「恋」の歌であるものの、私は毎日学校で会う子どもたちや自分の子を想像したのです。子どもって大事な存在だなあ・・・と嘯みしめていたのです。

新年度が始まる4月から、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながらの生活は続くだろうと思います。だからこそ、我々大人が「大事な人ほど すぐそばにいるの」精神で、子どもたちを大切に思い、その成長を共に喜び合える環境を整え続けていく必要があります。

保護者の皆様、地域の皆様、関係の皆様、一年間大変お世話になり、ありがとうございました。来年度も変わらず、大事な存在である子どもたちを支え見守っていただけたら幸いです。

正門前の梅が紅に白にと日に日に鮮やかになってきました。大勢のうめっぴーが楽しげに集っているようにも見えます。春がもうすぐやってきます。

